

宝曆十三癸未世良田御修覆

七月廿五日

外迁宮

十二月廿五日

正遷宮

日記

源孝純記之
干時五十六歳

甘肅回河渡後日記

○重陽十三至東江月十日回渡後記

自甘肅回河渡後，
沿河而下，
水勢漸急，
舟行頗速，
兩岸山色，
蒼翠欲滴，
風景宜人，
誠為勝地。

○月廿六日，
舟行至東江，
水勢漸急，
舟行頗速，
兩岸山色，
蒼翠欲滴，
風景宜人，
誠為勝地。

洛陽代年運之役人所以五言云

右側書北

○貢

一世書回 漸宮漸修後元文之辰年

外遷宮 六月廿日

正遷宮 九月十七日

右書新澤清出之先側開用然漸修年

本中修書及上書以早川修書及新澤仁

前指通河南日律惟子長上下之利為洞

勢上清化之其利則南訓 神而河侯

陽載之仁後存之仁前流 玄後成開用

然中書中書修書及新澤仁

然中書中書修書及新澤仁

漸修即中書修書

外迁家 九月三日

正迁家 十月五日

浙奉新

河内

守金田

右河内迁家 九月七日 河内市 府署 耳目

长修 卷 周 青 洞 石 上 浮 光 中 去

一 正 德 年 年 河 内 府 署

外迁家 七月五日

正迁家 九月四日

浙奉新

河内

池田表

右河内迁家 九月七日 河内市 府署 耳目

长修 卷 周 青 洞 石 上 浮 光 中 去

一 正 德 年 年 河 内 府 署

外迁家 六月五日

正迁家 九月五日

河津

河津

平川

右河津より河津へ私願の長橋を
利島洞砂上流に申上

未吉

未吉

右河津より河津へ私願の長橋を

○右河津より河津へ私願の長橋を

○右河津より河津へ私願の長橋を

○右河津より河津へ私願の長橋を

○右河津より河津へ私願の長橋を

○右河津より河津へ私願の長橋を

○右河津より河津へ私願の長橋を

○右河津より河津へ私願の長橋を

○右河津より河津へ私願の長橋を

○右河津より河津へ私願の長橋を

六月廿一日

不復知矣

連名上下兩河各鄉水到無口因下鄉所
學各園中各鄉各處各鄉各鄉各鄉各鄉
丁卯年

○日暮石門西
○夜泊牛渚
○夜泊牛渚
○夜泊牛渚

美

若くは古より現るゝ実文年々

[illegible]

山嶺落手長沙柳也付作千金酒常飲四
春常飲此酒也

[illegible][illegible]

小のり上、重なる、大板、小のり、
 小のり、上、重なる、大板、小のり、
 小のり、上、重なる、大板、小のり、

六日

何如
王懷深

○世尚遷徙懷門用掛

賢者

心外無事

心從目

蘇州沈氏
文翁
文翁

齊生文齋

主客為賓

以明

四
流
任
便

歸德府

ハサノ目

n

黃汝

分

吾年七十
上世古碑
江東源氏
志契年三
是行 大七
福永子氏

卷之七

海水子氏印

桂木以人

平井大左衛門

〃

星田新十郎

室巻清次

山中左平次

〃

文倉孝助

大橋梁

平田信中

同上

○願橋中より右坂

家老

金井源三郎

用人

中川又左衛門

書記

多田若丹助

〃

林久馬助

目録

市川金吾

筆録

新田大左衛門

日

平野左衛門

高次郎

石之恒有書八詩而後友人沈田家
新字有世所已

[illegible]

○月七日初自世海上乘舟所載正法流亡者
麻生 普門寺 武部 石上 魚利人 池田 辰
長 石上 寸方 用 用 義 仁 廣 成 石 光 治 長
石 光 治 長 石 光 治 長 石 光 治 長

為河遷去高江江流北に極く其處に
 形老布あり而して古布なり河内江東江
 江之江に流るるを候河内をてまゝなり

[illegible][illegible]

○日中吉州郡神戶人池田氏常言。富貴
者一川遷之河。而池田氏亦未嘗不為之。
可知。吾友某公。江田氏。未仕。而信。而為。
西院。南院。皆有。其人。用。之。而。吾。友。某。公。
而。遷。之。西。院。又。出。任。而。又。新。之。而。吾。友。某。公。
佛。身。任。之。吾。友。某。公。又。上。而。吾。友。某。公。又。上。而。吾。友。某。公。
右。氏。西。院。氏。亦。吾。友。某。公。又。上。而。吾。友。某。公。又。上。而。吾。友。某。公。

又吾友某公。用。人。吾。友。某。公。又。上。而。吾。友。某。公。又。上。而。吾。友。某。公。

外。遷。之。事。亦。吾。友。某。公。又。上。而。吾。友。某。公。又。上。而。吾。友。某。公。
外。遷。之。事。亦。吾。友。某。公。又。上。而。吾。友。某。公。又。上。而。吾。友。某。公。
外。遷。之。事。亦。吾。友。某。公。又。上。而。吾。友。某。公。又。上。而。吾。友。某。公。
外。遷。之。事。亦。吾。友。某。公。又。上。而。吾。友。某。公。又。上。而。吾。友。某。公。

外。遷。之。事。亦。吾。友。某。公。又。上。而。吾。友。某。公。又。上。而。吾。友。某。公。
外。遷。之。事。亦。吾。友。某。公。又。上。而。吾。友。某。公。又。上。而。吾。友。某。公。
外。遷。之。事。亦。吾。友。某。公。又。上。而。吾。友。某。公。又。上。而。吾。友。某。公。
外。遷。之。事。亦。吾。友。某。公。又。上。而。吾。友。某。公。又。上。而。吾。友。某。公。

七月廿一日

定和寺部家集

金吾堂主

右邊寺部家集部家集よりとけり所嘉法に寄
上り所より金吾堂主門場所より所便の事
門場所よりとけり所嘉法に寄進寺より所便の事
主

此其旨七時前大至文帝路より所便の事
場所より所便の事より所便の事
河邊寺部家集部家集より所便の事
刀指不倍より所便の事より所便の事

右集計部家集部家集より所便の事

右集計部家集部家集より所便の事

七月廿一日

定和寺部家集

右集計部家集部家集より所便の事
文帝路より所便の事より所便の事
河邊寺部家集部家集より所便の事
刀指不倍より所便の事より所便の事
此其旨七時前大至文帝路より所便の事
場所より所便の事より所便の事
河邊寺部家集部家集より所便の事
刀指不倍より所便の事より所便の事

いふ所を今も成り又おぼしめし此の所を見せし
ていふ所より上流に流るる所をいふ所を今も
後刻より今も別段に示す所を今も示す所を
いふ所を今も示す所を今も示す所を

日七時前長木より南に流るる所を
近く三仙堂より文部省前門の途より
白根谷と云う所を此の二番の所より南に流るる
所を今も示す所を今も示す所を今も示す所を
今も示す所を今も示す所を今も示す所を
今も示す所を今も示す所を今も示す所を

いふ所を今も示す所を今も示す所を
いふ所を今も示す所を今も示す所を
いふ所を今も示す所を今も示す所を
いふ所を今も示す所を今も示す所を
いふ所を今も示す所を今も示す所を
いふ所を今も示す所を今も示す所を
いふ所を今も示す所を今も示す所を

八月朔

光緒部

王陽明先生

粉

和運云、言山形縣に於て、
之の先づ、西運を成るべき
なり。上は、けしき等、

[illegible]

人痛心物

沈氏所供以爲疑

紅心文

心遠文以自適

沛翁所供乃戴鼎

國
紅
長
如
子

義所為之
心近之

外

仕部乃所張乃戴

此乃... (faint vertical text)

子之

卷之四

心遠意長

此乃老幼
 之樂也

正德五年九月

わが家と云ふは

不似此等文字

五、市上之發售或分

高生文石記

梁王玄伯

作古美大

戊午年
明倫堂

品類

五、
六、

能可いあゝ心持方より流れては片
月あふく候す候と云ふ

つりあ

三候源のり

五部新法

ねむりあふく候す候と云ふ
月あふく候す候と云ふ
山あふく候す候と云ふ

八月廿九日
八月廿九日
八月廿九日

八月廿九日
八月廿九日
八月廿九日

八月廿九日
八月廿九日
八月廿九日

何月

長崎正長寺

永年徳久寺

明和正長寺

上野御車

和歌如之

和歌正長寺

和歌正長寺

和歌正長寺

和歌正長寺

和歌正長寺

和歌正長寺

和歌正長寺

和歌正長寺

和歌正長寺

三月廿五日

三月廿五日

三月廿五日

三月廿五日

三月廿五日

三月廿五日

此書は古くからある書物である
が、その内容は、
その時代の思想や
生活様式を
よく表している。

その中に、
多くの名文が
見られる。

その中でも、
特に有名な
文句は、
「
人生は夢
の如きもの
なり」と
ある。

○ 以上、本書の
大要を述べた。

以上

本書は、
その時代の
思想や生活
様式を、
よく表して
いる。

以上

一、本書は、
その時代の
思想や生活
様式を、
よく表して
いる。

前清内江江漢之江漢江
江漢江漢江漢江漢江漢江

一不藥而愈

印達之江漢江漢江漢江
江漢江漢江漢江漢江漢江
一不藥而愈

以上

右江漢江漢江漢江漢江

江漢江漢江漢江漢江

○

江漢江漢江漢江漢江漢江

江漢江漢江漢江漢江漢江

江漢江漢江漢江漢江漢江

江漢江漢江漢江漢江漢江

江漢江漢江漢江漢江漢江

江漢江漢江漢江漢江漢江

江漢江漢江漢江漢江漢江

[illegible][illegible]

[illegible][illegible]

